

1 日本地理学会春季学術大会の開催

1984年4月4日、5日の両日お茶の水女子大学文教育学部棟、一般教育棟1号館、2号館を会場として、日本地理学会春季学術大会が開催された。会場校として教室スタッフにより大会実行委員会(委員長・浅海重夫、本部長・式正英、庶務・井内昇、会計・内藤博夫、会場・三上岳彦、巡検懇親会・栗原尚子、記録・渡辺真紀子)が組織され、お茶の水地理学会の卒業生会員21名が協力委員となり、学生会員40名の応援も得て会務が処理され、無事終了した。来場者819名。なお懇親会は4月4日夕方茗溪会館で行われ、藤巻正生学長に臨席して頂いた。懇親会参加者231名。なおこの折の本学会卒業生会員の研究発表は5件に及んだ。なお本学での日本地理学会の開催は13年ぶりのことである。

2 59年度総会、講演会

創設以来第3回目のお茶の水地理学会総会は、日本地理学会春季大会の会場校であった影響もあり、例年よりおくれて5月19日(土)午後2時半から一般教育棟2号館102室で開催された。出席者44名。恒例により議長(滝沢由美子氏)選出、総務挨拶の後、58年度事業および同決算が報告され承認された。次いで協議事項に入り、新役員人事(下記の通り)、59年度事業計画、同予算案が審議され、いずれも承認された。これにより59年度から会費は2500円(これまで2000円)、学生会費は1800円(これまで1500円)に改訂されることになった。なお昭和59年4月29日逝去された渡辺光・元教授と昭和58年6月10日急逝された山本宏子氏(当時学部2年生)の冥福を祈り全員黙祷を捧げた。

総会に続き午後3時より講演会が開催され、3回生佐藤由子氏の「鳥取県東部の兼業農家と集落定住」、式正英教授の「ザイールで見たテルミティエール(蟻塚)」(スライド付)の2つの講演が行われ午後5時過ぎ散会した。午後5時半より音羽通りのレストラン「グランドール」で懇親会が開かれ、31名が参加し盛会裡に終わった。

3 談話会

1984年10月27日(土)(第53回談話会)「ブータンと中

国貴州省を訪ねて」向後紀代美(11回生)氏服飾に関する文化地理学的考察を中心に講演があり、珍しいスライドが多数披露された。次いで向後氏と鈴木陽子(14回生)氏をパネラーとして、「女性にフィットする地理研究のテーマはあるか」を課題に、討論会がもたれた。

4 見学会

1984年11月24日(土)、市川市北部巡検、参加者11名(案内者、栗原尚子(16回生)氏)、朝10時半西船橋駅に集合、市川霊園に赴き故渡辺光先生の墓参を済ませた後、大町の梨畑、手古奈霊堂などをまわり、午後5時頃、国府台で解散した。なお二度目の見学会が1985年4月6日(土)、案内者、和田明子氏により甲府盆地が予定されている。

5 ニュースレター発行

No. 5 1984年6月15日(4ページ)

No. 6 1984年10月5日(7ページ)

「女性にフィットする地理研究のテーマはあるか」について卒業生会員の記事が7篇載せられている。

6 その他

a. 昭和60年度総会、講演会、懇親会は、4月20日(土)に予定されている。

b. 役員(昭和59年度)

総務 浅海重夫

企画 式正英、井内昇、阪口陽子、瀬戸玲子、東山セツ子、金子晶子、向後紀代美、滝沢由美子  
編集 浅海重夫、井内昇、栗原尚子、佐藤由子、鈴木陽子、田中恭子、木全令子、石川顕子

会計 三上岳彦、渡辺真紀子、厚井和子、中島直子

庶務 式正英、内藤博夫、渡辺真紀子、貝山久子、武田むつみ、河井みどり、室伏朝子

c. 会員数 (1985年1月31日現在)

教官会員(卒業生を除く)5名、学部卒業生会員305名(卒業生445名のうち)、大学院・専攻科修了会員10名(修了者22名のうち)、学生会員83名、特別会員20名(会費免除会員6名をふくむ)、会員総数423名。

## 会 員 消 息

### 地理学教室動向

59年度は専任教官の異動はなく、教室内の役割分担も58年度と同じであった。

各教官の担当学部専門科目は次のとおりである。

浅海重夫教授（地理学概論，地質学，土壤地理学，自然地理学実験Ⅱ），式正英教授（地誌学，地形学Ⅰ，Ⅱ，地図学），井内昇教授（地理学概説，集落地理学，都市地理学，外国地誌Ⅲ），内藤博夫助教授（経済地理学Ⅰ，Ⅱ，日本地誌Ⅰ，一般教育「地理学」），三上岳彦助教授（気候学Ⅰ，Ⅱ，地図学演習，自然地理学実験Ⅰ），栗原尚子講師（日本地誌Ⅱ，社会地理学，外国地誌Ⅳ，地理調査法，一般教育「地理学」）。この他に，各教官とも地理学演習を担当し，他に大学院の講義，演習もうけもった。

この他に非常勤講師として次の11人の先生に講義をお願いした。（\*は大学院）

江波戸昭（明治大），諏訪彰（元気象庁），中島直子，浜田隆士（東京大），宮口洞廬（早稲田大），宮脇昭（横浜国大），和田明子（都留文科大），鴨沢巖\*（法政大），河村武\*（筑波大），濱英彦\*（成城大），高橋伸夫\*（筑波大）。

専任教官の主要な学内委員会所属は次の通りである。浅海教授（施設計画委員，人間文化研究科講座委員），

式教授（予算委員，人間文化研究科講座委員），井内教授（一般教育委員），内藤助教授（入試選抜方法研究委員），三上助教授（入試委員，電算機室運営委員），栗原講師（臨海実験所運営委員），

59年度の教室関係者の海外研修は，8月末にフランスを中心に開催された第25回国際地理学会議（IGC）に，浅海，式，井内，栗原の4教官が参加，併せて関係フィールド各国を訪れた他，10月末から11月上旬にかけての約10日間，三上教官が中国北京市で開かれた「国際気候変動シンポジウム」での研究発表のため渡航した。

飯本信之先生から地理学関係図書，学術雑誌等約100点が寄贈され，整理完了後教室の「飯本文庫」に納められる。また，59年4月に死去された故渡辺光先生ご遺族から，地理学教室に先生の蔵書約450点が寄贈されたので，教室では「渡辺文庫」としてまとめて保管することとなり，目下カードの作成その他整理作業を進めている。いずれも整理が終り次第教室関係者の閲覧に供されるので，有効に利用されたい。

文教育学部2号館の新築に伴い，地理学教室では現在の7階に研究室2室分の配分を受けたので，助手室，資料室を中心にかなり大規模な模様替が行なわれた。